Funehiki High School News　vol.81

◆入学おめでとう

誓いの言葉を述べる吉田公幸さん

平成２６年度の入学式が４月８日に行われ、本校校長から普通科１４１人の入学が許可されました。

新入生代表の吉田公幸さん（船引中出身）は「この学舎を巣立つ３年後までに人として大きく成長できるよう、何事にも積極的に取り組みます」と誓いの言葉を述べました。

また、翌９日には新入生と２、３年生との対面式が行われました。新入生は、生徒会長の吉田巧さん（小名浜第一中出身）による生徒会役員の紹介と歓迎のあいさつを受け、代表の遠藤由樹さん（川内中出身）が「船引高校で良い仲間や先輩方と出会うことができうれしく思います。部活動と勉強を両立して充実した高校生活を送りたいです」と力強くあいさつしました。

拍手の中、入場する新入生

対面式の遠藤由樹さん

◆部活動紹介

野球部のパフォーマンス

４月１０日の午後、本校体育館で生徒会主催の部活動紹介が行われました。

運動部、文化部合わせて１８の部が、新入生に対し部活動の様子を紹介しました。実際にボールなどを使って競技を実演する運動部や、作品や演舞を披露する文化部の発表に、会場は大いに盛り上がりました。すでに入部する部活動を決めた生徒も、まだ決めかねて悩んでいる生徒も、それぞれが先輩方のパフォーマンスに大きな拍手を送っていました。

現在船引高校は部活動の加入率が非常に高く、どの生徒もそれぞれの部活でより高い目標を持って一生懸命に活動しています。今後も船高生の活躍にますますご注目ください。

よさこいと書道パフォーマンスのコラボ

◆デュアル実習調印式

４月１７日、本校会議室で船引高校と田村市、地元事業所の連携人材育成事業「デュアル実習」の調印式が執り行われました。式では田村市長の冨塚宥暻氏をはじめ、実習企業・施設代表として株式会社白石モータース代表取締役社長の白石高司氏からあいさつをいただきました。実習生を代表して３年３組の佐藤舜大さん（船引中出身）が「昨年度学んだことをさらに伸ばせるよう、吸収力と柔軟性を持って頑張りたい」と抱負を述べました。式の最後に、わかくさ幼稚園長の牧公介氏と２年遠藤悠雅さんの保護者、校長の相良昌彦が書面に調印しました。

本年度のデュアル実習生の人数は、２年生１６人、３年生１５人の計３１人となっています。２年生は毎週火曜日、３年生は毎週木曜日に各企業・施設でお世話になります。

名前を呼ばれて起立する実習生

福島県立船引高等学校　Tel…0247-82-1511　Fax…0247-82-5233
HP…http://www.funehiki-h.fks.ed.jp　mail…school@funehiki-h.fks.ed.jp

海	を	越	え	て
英	語			
	指	導	助	手
ペ	ン	リ	レ	ー
			No.	11

なぜ日本に来たの？

Chad Scott
チャド・スコットさん
（アメリカ合衆国
コロラド州出身）

私自身のことと、どうして私が日本に来ることにしたのか少しお話ししたいと思います。私はアメリカのコロラド州の出身です。私の母はジャマイカ人で、父は英国のスコットランド人です。私はハワイ大学で言語学を学び、韓国語とスペイン語を学びました。このことを誰かに話すと、必ずその人は訳が分からないといった様子で、「韓国語とスペイン語を話せるなら、なぜ日本に来たのですか」と聞きます。

その質問に答えることは難しいです。「なぜ日本に来たのですか」と質問する場合、たいてい短くて簡単な答えを期待するからです。いくつか例をあげてみましょう。

一つは、日本に来る多くの人が日本の文化を好きだからというものです。私も日本の文化が好きです。日本人の礼儀正しさや勤勉なところが好きです。美しさに対する日本人の（美意識）理解の仕方や「わび・さび」、つかの間に過ぎゆくはかないものの美しさを鑑賞する日本人の感性が好きです。それらの全てを好ましく思っていますが、私の場合それが日本に来た理由ではありません。

次に、多くの人が経験したことがないことをしようと日本を訪れます。旅することを好む人は、未知の地を訪ね歩いたり、新しい言葉を学んだりすることに挑戦します。しかしこれも私が日本に来た理由ではありません。

さらに、多くの人々が経済的な理由で日本を訪れますが、それも私が日本に来た理由ではありません。最近は仕事を探すことが困難ですが、お金が全てではありません。

日本に来る人々の主な理由はそれらの事を期待してですが、私の場合はそれとは異なり説明することが難しいのです。

東日本大震災の前、私にとって日本に来ることは多くの選択肢の中の一つにすぎませんでした。しかし震災後、私は日本に行きたいという自分の気持ちをはっきり自覚しました。世界では目を覆うような多くの惨事が起きています。２００１年９月１１日、アメリカはテロリストの攻撃によって苦難を受けました。世界にはハリケーン、暴力、津波、戦争、貧困などがあります。災害が起きると私はいつも被害者となった人々の痛みを感じますが、また自分の無力さも感じます。私はクリスチャンです。私たちクリスチャンが信じることの一つは、困っている人々や助けを求めている人々を助けることです。私は状況を変えたかったので日本に来ました。放射線の影響を恐れて多くの人々が日本を去り、多くの人々が日本に来ることを恐れるようになった後も、人として互いに助け合うことが必要であり、気遣いや世話をする人々がこの地域にいることを私は見てほしかったのです。私は日本の心を知りたい、そしてここ福島で人々が今必要としているものが何かを聞きたいのです。私が状況を変えることができるかどうかは分かりませんが、それができることを心から願っています。皆さんから話を聞いて、私たちが皆さんを決して忘れていないことを示せるよう頑張っていきたいと思っています。